

梅鶯仏教壮年会報

第181号
2023年
3月19日

梅鶯仏教壮年会定期
総会

三月二十五日(土)

午後五時より

役員会

同日 午後四時より

*新型コロナウイルス感染防止のため、本年

北村宗吾氏還淳



去る一月三十日、鶯仏設立当初から、鶯仏として、常に格の立場において、温かく見守り続けてきた北村宗吾氏(名釋勝圓さま)が、お浄土にお還りになられました。謹んで哀悼の意を表させていただきます。

後日、改めて追悼法要をお勤めさせていただきます。会報で追悼の特集をさせて頂

我が家の御絵伝 会長 北村新

一郎

令和2年度の豪雪は各地に大変な被害を与えました。我が家の古民家も雪の重みに耐えられず、結果、解体するこ

とになりました。建物解体と同時に終活作業の始まりとなり、ご先祖様方が残されたものや、両親、兄弟、子供達が使っていた思い出深い品々の処分には、それなりの覚悟が必要で、貧乏性の私には、正直辛い作業でした。

古文書等の一部は市に委託し、残せる物は納屋等に入れ

ました。その中に数本の古い掛け軸が出て参り、素人目にも御絵伝だと分かりました。長野住職様にも見て頂いたところ、親鸞聖人の御絵伝だと分り、住職から御絵伝の解説書まで頂きました。

解説書によると、親鸞聖人の曾孫である覚如上人が、親鸞聖人の33回忌にご遺徳を讃えた『報恩講私記』を著され、その翌年にはさらにご遺

縦型の四幅の掛け軸にして御絵伝とい、掛けられます。陣の余間に御絵伝は、色こそ

きれいに残っておりますが、表装の部分は破損状態です。開けるには注意が必要です。

いた頃のご先祖様が、江戸時代の明治時代にかけての人物である信治郎、小七様が上げられますが、特に小七様は信心深く、夫婦揃って長野の善光寺に何度となくお参りされた時のものと思われ、道

中手形が残っております。な終活作業の途中にこのように感動を覚えました。

今後とも大切に伝えていき、ご先祖様方の思いとともに生きたいと思っております。田法輪寺様での仏教例会、坂田組の連研への参加とお世話になつております。本年度

の、親鸞聖人生誕850年慶讃法要への参拝も予定しております。またコロナ対応で中止になった行きたかった旅行も本年度は行きたいものと考え

題材法話

浄土真宗のみ教え ⑮

「自在の救い」

＊拝読「浄土真宗のみ教え」の26頁をお読み下さい。

阿彌陀さまの一切の衆生を迷いの世界から救いたい」という「利他」の働きは、私たちだけでは収まらないのです。浄土真宗を案ずるに、

二種の回向あり。
一つには往相、
一つには還相なり

（親鸞聖人教行信証）

少し難しい言葉ですが、「往相」とは浄土に往生して仏に成ることにあり、「還相」は迷いの世界に還りて衆生を救済とです。浄



ることになるのです。本願のこのことにより、私

が念仏を申す身に、

なつたのは浄土で仏とな

成られた方々の様々な

う縁によるものと味わ

師や親鸞聖人は、善導大

と仰いでおられたお方だ

た。○愛別離苦

くしい人の別れ、特に親

間の「愛別離苦」を、人

る「四苦八苦」の中であ

一つとするのも領けま

す。悲し愛別離苦は、

の還相回向の本願しき

悲し回向の働き



界があることに気づか

○先立つわが子は

善智識な

り

を、父母を亡くした子供

妻を「亡くします。夫や

夫を「寡婦」と呼びま

したけれど、子供の呼び

方はありませう。呼び

本だけ聞きました。国共

だとも聞きました。悲

し過ぎて、あまりにも

ないから、といわれま

す。悲しい先立たれる

うその極まりないとい

さにも還相回向の

れる方もおられ



夢の世にはかなき

身を知れと

教えて帰る

子は知識なり

と向かわせる人、正し

意味です。

和泉式部を仏道に向か

わせたのです。

わが身になれたのは、

いた時、その子が浄土

え、還相回向があると

に、子が仏と成つてく

だ、そこに儚い人生で

あつても、開

7月例会住職法話

